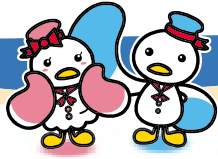


伝言板

No.14(H22.9)



NPO法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

「第7回通常総会」開催……………	1	平成22年度「支部長会議」開催……………	4
平成22年度事業計画……………	2	平成22年度助成事業の実施概要……………	5
北海道開発局防災エキスパート		第6回 釧路港舟漕ぎ大会……………	6
平成21年度研修会……………	3	みなと南極まつり副港ボートレース2010……………	7
平成22年度認定式……………	3		

「第7回通常総会」開催

第7回通常総会は、平成22年3月2日(火)16時10分からセントラル札幌北ビル6階 A会議室で開催され、平成22年度の事業計画等が承認されました。

議案の審議は、以下の通りです。

- 第1号議案 平成21年度事業報告
- 第2号議案 平成21年度収支決算報告並びに監査報告
- 第3号議案 平成22年度事業計画(案)
- 第4号議案 平成22年度収支予算(案)

なお、今年度は理事、監事の全員が重任となっております。

総会の閉会后、特別報告として、中村理事長から「道内における港祭り(ボート漕ぎ大会)の状況」と題しパワーポイントを用いて、昨年度内6港(釧路港・稚内港・函館港・苫小牧港・根室港・江差港)で開催されたボート漕ぎレース状況の説明がありました。

ひきつづき、隣のC会議室において懇談会が開催されました。来賓には、北海道開発局から藤田港湾空港部長が出席され、短い時間でしたが和やかな雰囲気の中で歓談する事が出来ました。



平成 22 年度 事業計画

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

(1) みなとサポート業務

各開発建設部並びに各港湾事務所で開催するみなと見学会等の行事に支援を希望するところに当 NPO 法人「みなとサポーター」を派遣します。「みなとサポート業務」は当 NPO 法人の自主事業として可能なところから実施します。

(2) 助成活動

前年同様「みなとまちおこし」、「みなとの活性化」につながる事業の助成を実施します。

各開発建設部の「みなとの相談窓口」等を通じて推薦を頂くと共に、当 NPO 法人のホームページで募集要領を公示し、多数の応募が可能となるよう配慮します。

採択に当たっては、評価審査委員会を開催し決定します。

結果は、当 NPO 法人ホームページ、伝言板で公表します。

「みなとまちおこし」「みなとの活性化」等は継続して事業が実施される事が望ましいが、継続事業に拘らず単年度事業でも内容の優れたものは積極的に採択対象とします。

(3) みなと座談会

「みなとまちおこし」「みなとの活性化」について考える「みなと座談会」は、北海道みなとまちづくり女性ネットワークとの共催で、各地でまちの活性化に取り組んでいる方々の参加を要請し開催します。

開催時期、場所等については従来の「ザ・シンポジウムみなと」の開催に拘らず、適期・適地での実施を検討します。

(4) ミニパネル展開催

当 NPO 主催の「ミニパネル展」は従来通り、「ザ・

シンポジウムみなと」開催会場で行います。今年度はパネルの制作を検討します。

(5) 釧路舟漕ぎ大会

前年同様実行委員会のメンバーとして当 NPO 法人の事務局員を参加させ、今後も引き続き協力して行きます。

また、他地域で関心を有する人々の情報など実行委員会と共同で収集に努めます。

(6) 港湾・空港・漁港の防災・災害に係る活動支援

北海道開発局防災エキスパート(港湾・空港・漁港)登録会員の一部交代(高齢化を防ぐため)を北海道開発局港湾空港部(事務局)と連携し進めます。

平成 22 年 2 月 22 日に開催した研修会でエキスパートの出動時期、支援活動の範囲に一定の方向性が示されましたが、出動に際し、より効果的な支援が可能となるよう勉強会を実施します。

(7) 広報活動

当 NPO 法人の活動や上記の関連情報を会員に伝えると同時に、一般の方々にも港の役割と暮らしの関わり合いを広く理解して頂くため、広報誌「伝言板」の発刊と昨年 4 月に機能更新したホームページの充実を図ります。

① 伝言板は、平成 22 年も年 2 回の発刊を基本とします。また、ホームページは必要の都度更新を図ります。

② 記念グッズ(無償)の配布は、基本的に着ぐるみ使用箇所(数量限定)しますが、状況に応じ柔軟に対応します。

北海道開発局防災エキスパート

平成 21 年度 研修会

北海道開発局主催の平成 21 年度「北海道開発局防災エキスパート」(港湾・空港・漁港)研修会は、平成 22 年 2 月 22 日(月)札幌第一合同庁舎地下北側会議室で 15 時から 17 時にわたり開催されました。

開催に先立ち、北海道開発局 藤田佳久港湾空港部長のご挨拶があり、つづいて当 NPO 法人中村信之理事長の挨拶がありました。

今回は、防災対策に関わる講演として、北海道開発局事業振興部矢野防災課長から「平成 22 年度大規模津波防災総合訓練及び北海道開発局の津波に対する取り組みについて」の説明がありました。

次に、事務局より情報提供として「平成 21 年度の災害事例紹介」、「防災エキスパート登録事務について」、「防災エキスパート業務内容(案)について」の説明がありました。引き続き質疑応答と意見交換を行いました。当制度が平成 18 年に発足以来、今迄

に防災エキスパートとしての出勤実態がなく、出勤時期・業務内容等について、活発な質疑応答がありました。

研修会終了後、17 階喫茶室で懇談会が開催され、短時間でしたが和やかな雰囲気の中で歓談することが出来ました。



平成 22 年度 認定式

平成 22 年 7 月 7 日(水)15 時 30 分、合同庁舎 10 階 2 号会議室で北海道開発局防災エキスパートの認定式が、港湾空港部長、計画課長、建設課長、港湾行政課長、空港課長、農業水産部水産課長の出席のもとに開催されました。

今回は、防災エキスパート登録済み会員 26 名の内、10 名の方々が高齢化及び健康状態等から交代のやむなきに至り、新たに 10 名の方々が登録されています。栗田港湾空港部長より出席者に対して、防災エキスパート制度に対する協力方について感謝する旨のねぎらいの言葉があり、引き続き登録通知証が交付されました。

認定式終了、港湾建設課佐々木係長より防災エキスパートの制度と具体的な業務内容の説明があり、

そのことについての質疑応答が行われました。

その後、合同庁舎近傍の軽食喫茶に会場を移し、懇親会が行われました。短時間でしたが和やかな雰囲気の中で談笑することが出来ました。



平成 22 年度「支部長等会議」開催

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構事務局の支部長会議は、平成 22 年 6 月 1 日(火)13 時 20 分から 14 時 40 分まで、セントラル札幌北ビル 2 階会議室において開催されました。

支部長等会議は、札幌の事務局と各支部事務局の連絡を密とし業務の実施を円滑にすることを主な目的として年 2 回開催しております。

会議は、釧路、函館、苫小牧、札幌の 4 支部の支部長並びに支部次長と札幌の事務局の出席により行われました。

開催にあたり中村理事長の挨拶のあと議事に入りました。

議事の項目と主な項目の概要は次の通りです。

- 1 平成 22 年度 当 NPO 法人の主要業務内容と日程について
- 2 平成 22 年度 当 NPO 法人事業計画について
- 3 みなとサポート事業の支援について
前年に引き続き、各開発建設部並びに各港湾事務所で開催する「みなと見学会」などの行事に当 NPO 法人会員の「みなとサポーター」が支援を希望するところに派遣します。
実施に当たっては、当 NPO 法人の事業として支援可能なところから実施します。
- 4 みなとのキャラクター(着ぐるみ)の貸付事業について
着ぐるみ(ぼーとん・べいくりん)は、全道のみなとで開催されるイベント等に今年度も貸し出し(有料)を実施します。
- 5 助成事業の実施概要について
助成事業の採択活動を決定するため、5 月 20 日「評価審査委員会」を開催し決定しました。採択された事業については、出来るだけ当 NPO 法人の担当者が現地に参加することとします。
- 6 みなとキャラクターグッズ制作と配布について
当 NPO 法人では、小中学生等が参加するイベント等で配布する記念グッズ(ノート・ボールペン&マーカー)を制作し、今年度もみなとキャラクター着ぐるみ「ぼーとん・べいくりん」の使用するイベントへ記念グッズを無償で提供しています。
- 7 この後、有意義な意見交換があり会議は終了しました。



平成 22 年度 助成事業の実施概要

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構では、道内のみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等、様々な事業を支援し、「みなとまちの活性化」に寄与することを目的とした助成事業を平成 20 年度から始めました。

平成 22 年度の採択事業を決定するため、5 月 20 日「評価審査委員会」を開催しました。委員は学識経験者 2 名、当法人から理事長と事務局長の 4 名が各団体から提出された申請活動に関する応募資料について審査を行いました。

審査の選考基準は、事業の目的が「みなとまちの活性化への効果が期待できる事業」とし、①みなと

への理解と利用促進に係る広報・体験学習活動、②海岸・みなとの清掃、植樹等の美化活動、③海洋及びみなとに係る教育、文化活動の 3 点に主眼をおき、地域住民との連携と広がり、また、過去の開催実績等も考慮し審査を行いました。

審査委員会の結果、申請のあった 18 件のうち活動内容が、みなとまちの活性化への効果が十分に期待できるものとして、11 件を採択しました。採択結果は 5 月 21 日に各団体に通知しました。

採択した活動名や団体名並びに開催日は以下の通りです。

活 動 名	団 体 名	開催月日
第 1 回・市民海上大運動会	小樽築港ベイエリア活用促進実行委員会	8 月 1 日
室蘭の海としたしむ海の日コンサート	みなと町づくりネットワーク室蘭	7 月 18 日
函館市港まつり 「函館ペリー来港回顧ボート競走」	ボート競争実行委員会	7/25～8/1
みなと南極まつり副港ボートレース 2010	稚内地元愛育成協議会	8 月 1 日
彩北わっキャナイト	稚内みなとまちづくり懇談会	H 23.2.12
WAKKANAI みなとコンサート 2010	稚内のみなとを考える女性ネットワーク	8 月 22 日
網走一番！ 秋祭り	網走青年団体連合会	9 月 26 日
はこだて「みなとと魚の学習会Ⅱ」	みなとまつづくり女性ネットワーク函館	8 月～9 月
水産物が消費者に届くまでを学ぶ漁業体験	松前江良地区マリンビジョン協議	7 月 22 日
港を核としたみなとの空間 花いっぱい活動 幼稚園児による北埠頭緑地写生会&絵画展	女性みなと街づくり苦小牧	6～10 月





第6回 釧路港舟漕ぎ大会

8月7日(土)「第6回釧路港舟漕ぎ大会」が、釧路川(幣舞橋～久寿里橋の間)で開催されました。前日の前夜祭に引き続き、好天に恵まれ熱戦が繰り広げられました。当NPO法人では、平山釧路支部長が出席しました。

今大会は、「国際バルク戦略港湾指定支援記念大会」として位置付けられ、一般の部55、女性の部15、計70チーム(競技者630名)が参加しました。開会式では、濱谷一生大会長と蛭名大也釧路市長が、国際バルク港湾指定への願いとともに各チームの大会での奮闘に期待する旨の挨拶がありました。

レースは1チーム9名(補欠1名)で、長さ8mの舵なし競技舟を使用し、100m折り返しコースで、5チームによるタイムレースで行われました。一般の部の予選第1レースは朝8時50分スタート、タイム上位の14チームと敗者復活戦を勝ち抜いた1チームが午後からの準決勝へ、準決勝のタイム上位5チームが決勝へ進出し、女性の部も予選のタイム上位5チームが決勝へ進出しました。

レースは潮位、風などに影響されてか、蛇行して倍の長さを漕がなければならなかったチーム、他チームの競技舟との接触で一息入れるチーム、10分のタイムオーバーのため、お助舟で曳航されてゴールするチームなど観客、出場選手、大会関係者は大いに盛り上がりました。

決勝は、一般の部で予選、準決勝で3分を切るチームの白熱したレースとなり、2分を切る好タイムの



争いで「第15 富丸チーム」が初優勝し、女性の部は、2分半の好タイムを出した「漕ぎまくり隊」が3連覇の快挙を達成しました。

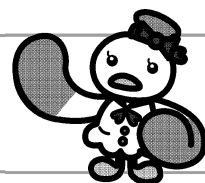
又、一般及び女性それぞれの部の優勝チームを当てる、優勝チームあてクイズやレースの様子、観客の状況などを撮影した写真コンテストも行われました。

競技終了後の閉会式では白崎義章大会副会長が、好天に恵まれ、事故も怪我人もなく盛況の内に大会が終了したことへの感謝の言葉が述べられ、表彰式に入り「第6回釧路港舟漕ぎ大会」を終了しました。

又、幣舞橋の欄干に「国際バルク港指定を応援しよう」と大型のボードが掲げられたほか、競技舟の船体にも同様な文字が書き込まれ、バルク港湾指定への盛り上がりアピールされていました。



「みなと南極まつり副港ボートレース2010」



稚内地元愛育成協議会主催による「稚内副港ボートレース2010」が8月8日(日)稚内第一副港で開催されました。

ここ数日の蒸し暑い曇り空の天気とは打って変わり、朝から夏の陽射しを受け、最高のコンディションのもと、市内の職場やグループ26チーム300人が参加しました。

この副港ボートレースは、「港と海」をまちづくりに生かす賑わい交流拠点づくりの取り組みが推進され、稚内港が「北海道みなとオアシス」第1号として登録されたことを受け、みなとまち稚内の中心的な地域である副港地区において、参加団体・協力団体との意識の共有を図りながら市民参加型の交流拠点機能を拡充するためのイベントを開催する、と言う目的で開催されています。

今年で3回目となるこのイベントは、一昨年12チーム、昨年16チームと回を重ねるたび参加チームが増え、初参加が15チームでこの内、女性4チームと大会に華を添えました。

レースは、Eボートに漕ぎ手8人、音頭取り、舵取りの計10人が乗り、港内に設置されたブイを時計回りで折り返し、往復160mを競います。

予選9レース(1レース3チーム)を行いタイム上位6チームがセミファイナルに進出。また、予選で敗退したチームで敗者復活戦を行いタイム上位3チームがセミファイナルに進出。セミファイナルは9チームで3レースの勝ち抜き戦を行い、3チームが決勝レースに進みます。

午前9時の開会式に続き、レースの説明を受けた後、各チームは救命具を着てボートに乗り込む。スタートと同時に観客から熱い声援が送られ、漕ぎ手のパドルさばきにも力が入る熱戦が繰り広げられました。レースは予選から昨年の優勝タイムを上回るチームが続出し、初参加のチームも好タイムを出し白熱した戦いとなりました。結果は、初参加チームのバイク仲間で構成した「バイカーズクラブ旅人村(ダビットソン)」チームとなりました。上位5位チームの内、初参加の2チームが優勝と4位と大健闘しました。

また、副港市場前の特設会場では、宗谷建設青年会主催の「土木の日」でパネル展、重機の展示の外、稚内海上保安部主催のパネル展等が同時開催され、飲食などの出店もあり大勢の市民が訪れ終日賑わいました。





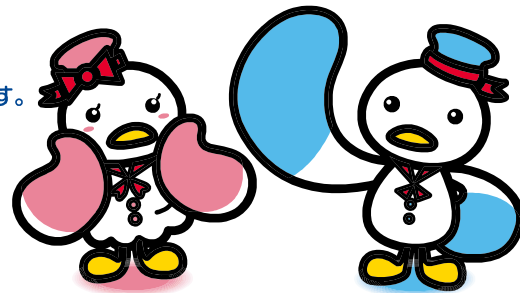
みなとの
マスコット

「ぼーとん」くん、 「べいくりん」ちゃんの紹介

北海道のみなとのキャラクター、「ぼーとん」、「べいくりん」は、みなさんにみなとの役割を知ってもらったり、みなさんが海やみなとで楽しく過ごしてもらおうお手伝いをするために、平成11年9月に誕生しました。

「小さな赤ちゃんカモメ」をイメージにしたとてもかわいい着ぐるみの男の子と女の子です。

ピンクの洋服を着たわたしは女の子で「べいくりん」といいます。
空色の洋服を着た僕は男の子で「ぼーとん」といいます。



べいくりん

ぼーとん

「ぼーとん」・「べいくりん」の図案は NPO 法人北海道みなとの文化振興機構が商標登録しております。印刷等で図案をご使用のさいは、当 NPO 法人までご連絡ください。

さらに、「ぼーとん」・「べいくりん」の着ぐるみの貸し出し（有料）もしております。全道のみなとのイベント等で大活躍中です。ご希望の方はご連絡ください。なお、夏の期間はイベントが集中しておりますのでご希望にそえない場合がありますのでご了承ください。

特定非営利活動法人 北海道みなとの文化振興機構

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目
セントラル札幌北ビル5階
TEL 011-727-3710 FAX 011-727-3710

